

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟203

【授業目的及び達成目標】

研究室で活動するために必要なアカデミックジャパニーズについて勉強します

【授業キーワード】

academic Japanese, vocabulary building, engineering term

【授業内容及び授業方法】

毎回一つのトピックについて必要な用語や表現について簡単な日本語で学びます
漢字の勉強もします

【授業項目】

laboratory
mathematics
physics
material science
IT
experiment
paper

【教科書】

『初級文型で学ぶ科学技術の日本語』

【成績の評価方法と評価項目】

試験をします

【留意事項】

次の人が授業を受けることができます。
・日本語研修コース修了生
・Basic Japanese Course 3 が終わっている人
・日本語能力試験3級に合格している人

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟505室
#505, Management & Information Systems Science Building, ext.9802

【授業目的及び達成目標】

初級修了者を対象に中級入門レベルの総合的な日本語能力の養成を図る。

【授業キーワード】

話す力、聴く力、語彙力、音変化、話しことば

【授業内容及び授業方法】

授業において以下の項目について練習を行うことで、中級入門レベルの日本語能力の養成を図る。

1. ペアによるスピーチと質疑応答練習
2. 各週の課題に関わる話しことばの文法項目、音変化、語彙強化の練習

【授業項目】

- 第1週 ガイダンス、レベルチェック
- 第2～3週 スピーチ、「貸してもらおう」
- 第4～5週 スピーチ、「予定を変更する」
- 第6～7週 スピーチ、「注文する」
- 第8～9週 スピーチ、「買い物」
- 第10週 スピーチ、「アルバイトを探す」
- 第11週 スピーチ、「ほめられて」
- 第12週 スピーチ、「交通手段」
- 第13週 スピーチ、「ゆずります」
- 第14週 スピーチ、「マンション」
- 第15週 期末試験

【教科書】

『日本語生中継・初中級編1』くろしお出版

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験の成績により評価する。

【留意事項】

日本語初級修了者を対象とする。
教科書を購入すること。

【担当教員】

柴崎 秀子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟508
TEL 0258-47-9856

【授業目的及び達成目標】

日本語による講義の理解に不自由のない日本語力を養成する。
日本能力試験2級合格のレベルに達することを目的とする。

【授業キーワード】

日本語中上級レベル

【授業内容及び授業方法】

毎回、漢字と語彙に関する宿題が出る。
授業は講義式のほか、学生による発表もある。
宿題の確認後、教科書を使って読解と文法を行う。

【授業項目】

1. 漢字の読み・書き
2. 語彙の積み上げ
3. 文章理解

【教科書】

大学・大学院留学生の日本語(1) 読解編
(必ず購入すること。)

【参考書】

授業の中で指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席、宿題提出状況、期末試験。

【留意事項】

日本語特論2を履修する者は、同時に日本語特論1を履修することはできない。
欠席、遅刻は減点の対象となる。

【参照ホームページアドレス】

http://
なし

【担当教員】

柴崎 秀子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟508
TEL 0258-47-9856

【授業目的及び達成目標】

日本語による講義の理解に不自由のない日本語力を養成する。
日本能力試験2級合格のレベルに達することを目的とする。

【授業キーワード】

日本語中上級レベル

【授業内容及び授業方法】

毎回、漢字と語彙に関する宿題が出る。
授業は講義式のほか、学生による発表もある。
宿題の確認後、教科書を使って読解と文法を行う。

【授業項目】

1. 漢字の読み・書き
2. 語彙の積み上げ
3. 文章理解

【教科書】

大学・大学院留学生の日本語(1) 読解編
(必ず購入すること。)

【参考書】

授業の中で指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席、宿題提出状況、期末試験。

【留意事項】

日本語特論2を履修する者は、同時に日本語特論1を履修することはできない。
欠席、遅刻は減点の対象となる。

【参照ホームページアドレス】

http://
なし

【担当教員】

柴崎 秀子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟508
TEL 0258-47-9856

【授業目的及び達成目標】

日本語能力試験2級合格を到達目標とする

【授業キーワード】

中上級、読解、漢字、文法、語彙

【授業内容及び授業方法】

毎回、語彙及び文法の宿題あり。特別な理由がない限り、15分以上遅刻した場合、出席を認めない。

【授業項目】

1. 宿題の提出
2. 小テスト
3. 読解問題

【教科書】

「完全マスター2級 日本語能力試験文法問題意対策」スリーエーネットワーク1260円を必ず購入すること。（著作権法上、コピーは許可されない。同じような名まえの教科書があるので注意）

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験50％，その他宿題，出席率，小テストの成績で50％

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論1, 2を履修することはできない。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟505室
#505, Management & Information Systems Science Building, ext.9802

【授業目的及び達成目標】

科学技術に関する話題について中級後半レベルの話す・聞く能力の養成を目的とする。

【授業キーワード】

記述説明能力、話す力、聴く力、語彙力

【授業内容及び授業方法】

毎回の授業において科学技術の記事を資料に取り上げ、その資料をペアまたはグループで、音読作業、意味の確認、課題作業、討論を行った後、個人レポートを作成し、提出する。

【授業項目】

1. ガイダンス(1回)
2. 資料分析と討論(13回)
音読、意味の確認、課題作業、討論、レポート作成
3. 期末試験(1回)

【教科書】

なし。

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

課題点40%、期末試験60%の割合で成績評価を行う。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論科目1と2を同時に履修できない。

【担当教員】

飯塚 尚子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟226号室

Email:naocoi@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

上級話者としての口頭表現能力、およびコミュニケーション能力を養うことを目的とする。日常生活、および研究生活において、自分の意思を上手に伝える能力は欠かせないものである。このクラスでは、どんな話し方をすれば相手に自分の意図が伝わるのか、あるいは伝わらない時の問題点は何かといったことを、自分の会話の分析、および相互ディスカッションを通して考えていきたい。その際、語彙や表現のみならず、発音、イントネーションにも注目したい。これまでの自分のコミュニケーション方法を振り返りつつ、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションストラテジーを考えていきたい。

【授業キーワード】

口頭表現能力、コミュニケーションストラテジー、人間関係、発音、イントネーション、ディスカッション

【授業内容及び授業方法】

出席を重視するとともに、授業への積極的な参加を求める。なお、進度については受講生の人数、レベルによって変わることもあるが、原則として2週で1つの題材を扱う。具体的には、まず会話例を提示し、その会話に見られる問題点を分析する。次に、実際にペアで会話をし、それを録音したものを再生しながら、自己分析、および相互分析を行う。題材は、下記参照のこと。

【授業項目】

- 1 授業計画について。イントロダクション
- 2-3 問い合わせをする
- 4-5 お店で接客する
- 6-7 お願いをする
- 8-9 誘う、断る、謝る
- 10-11 道や交通の案内をする
- 12-13 インタビューをする
- 14 復習
- 15 期末試験

【教科書】

授業時に資料を配付する。

【参考書】

「日本語を話すトレーニング」野田尚史、森口稔著 ひつじ書房(2004)

【成績の評価方法と評価項目】

平常点(毎回の会話) 50%
期末試験 50%
評価のポイントについては、授業内で説明する。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論1～3を同時に履修できない。

【担当教員】

飯塚 尚子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟226号室

Email:naocoi@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

上級話者としての口頭表現能力、およびコミュニケーション能力を養うことを目的とする。日常生活、および研究生活において、自分の意思を上手に伝える能力は欠かせないものである。このクラスでは、どんな話し方をすれば相手に自分の意図が伝わるのか、あるいは伝わらない時の問題点は何かといったことを、自分の会話の分析、および相互ディスカッションを通して考えていきたい。その際、語彙や表現のみならず、発音、イントネーションにも注目したい。これまでの自分のコミュニケーション方法を振り返りつつ、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションストラテジーを考えていきたい。

【授業キーワード】

口頭表現能力、コミュニケーションストラテジー、人間関係、発音、イントネーション、ディスカッション

【授業内容及び授業方法】

出席を重視するとともに、授業への積極的な参加を求める。なお、進度については受講生の人数、レベルによって変わることもあるが、原則として2週で1つの題材を扱う。具体的には、まず会話例を提示し、その会話に見られる問題点を分析する。次に、実際にペアで会話をし、それを録音したものを再生しながら、自己分析、および相互分析を行う。題材は、下記参照のこと。

【授業項目】

- 1 授業計画について。イントロダクション
- 2-3 雑談をする
- 4-5 スピーチをする
- 6-7 会議で発言する
- 8-9 手順を説明する
- 10-11 研究を発表する
- 12-13 面接を受ける
- 14 復習
- 15 期末試験

【教科書】

授業時に資料を配付する。

【参考書】

「日本語を話すトレーニング」野田尚史、森口稔著 ひつじ書房(2004)

【成績の評価方法と評価項目】

平常点(毎回の会話) 50%
期末試験 50%
評価のポイントについては、授業内で説明する。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論1~3を同時に履修できない。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟505室
#505, Management & Information Systems Science Building, ext.9802

【授業目的及び達成目標】

- 1) 日本の政治・社会・経済・文化に関する話題や日本と外国に関わる様々な問題に関して理解を深める。
- 2) 客観的分析力・論理的思考力、相手の意見を聞く能力、討論能力、文章作成能力の向上を養成する。

【授業キーワード】

討論能力、分析能力、文章作成

【授業内容及び授業方法】

授業ごとに新聞記事を資料に取り上げ、その資料をペアまたはグループで、音読作業、意味の確認、課題作業、討論を行った後、個人レポートを作成し、提出する。

【授業項目】

1. ガイダンス(1回)
2. 資料分析と討論(13回)
音読、意味の確認、課題作業、討論、レポート作成
3. 期末試験(1回)

【教科書】

資料を配布する。

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

課題50%、期末試験50%の割合で成績を評価する。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論科目1～3を同時に履修できない。

【担当教員】

飯塚 尚子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟226号室

Email:naocoi@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

ドラマを題材にし、聴解能力を高め、語彙・表現の拡充を目指すことを目的とする。また、ドラマ視聴後に、登場人物に見られる言語行動や日本の文化・習慣についてのディスカッションを通して、内容を要約したり、感想を述べたりする能力も身につける。ドラマや映画などは、視覚の助けもあって、「何となくわかった」つもりでいることが多い。このクラスでは、「何となく」を「確実に」するべく、語彙・表現を確認しつつ、ポイントをとらえた内容要約、および感想文の書き方を学ぶ。なお、扱うドラマは1話完結型の20分程度のものを使用予定。

【授業キーワード】

聴解能力、語彙・表現の拡充、日本人の言語行動、要約、感想文

【授業内容及び授業方法】

原則として、1回の授業で1話分を視聴する。具体的な授業の流れは次のようになる。

1. 前回分のドラマに関する小テストを行う(主に、語彙、表現に関するテスト)
2. ドラマの視聴1回目。内容確認のためのプリントを配付
3. ドラマに関するディスカッション
4. ドラマの視聴2回目
5. 2.で配付したプリントの答え合わせ
6. ドラマの感想、あるいは要約を書いて発表。その後提出

【授業項目】

- 1 授業計画について。イントロダクション(ドラマ1話分を視聴)
- 2-14 ドラマ視聴(1回1話、全13話分を予定)
- 15 期末試験

【教科書】

授業時に資料を配付する。

【成績の評価方法と評価項目】

- 小テスト 20%
宿題 30%
期末試験 50%

【留意事項】

日本事情特論1を受講する者は日本語特論1,2,3を受講することはできない